

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	石田まなみ	学校名	連雀学園三鷹市立第四小学校
教科（科目）・領域	家庭科	対象学年（人数）	5年1・2・3組（84名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和2年8月26日～9月16日（7時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方						
2. 実践する教科・領域： 家庭科 「C消費生活・環境」 SDGs12: つくる責任 つかう責任		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：						
物や金銭の使い方と買い物について、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、自分たちの身の回りのものが遠い世界とつながっていることに気付き、「持続可能な社会の構築」の視点から課題意識をもって消費者として工夫して生活することができる。						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	物や金銭の使い方と、消費者として環境に配慮した生活や買い物について理解し、購入に必要な情報の収集・整理を適切にしている。				
	②思考力、判断力、表現力等	物や金銭の使い方と、消費者として環境に配慮した生活について、身の回りの問題を見い出して課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、伝え合い、課題を解決する力を身につけている。				
	③学びに向かう力	地球市民の一員として、持続可能な社会の実現のための消費者の役割について、自身の生活を振り返って改善したりして、生活を工夫し実践しようとしている。				
6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】					
	小学校「家庭科」では、「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」の3つの領域について取り扱う。「C消費生活・環境」について単元全体で取り扱うのは2年間を通して、この単元のみである。 国際理解教育として汎用性のある授業の実現のために、既存の教科学習の1単元を国際理解教育実践と位置付けていくことが有効であると感じた。そこで、食品の買い物の場面を通して「食品ロス」、衣料品の買い物場面を通して「ゴミ問題」について取り上げ、そこで起こる課題について話し合いを行い、身の回りの問題が地球規模の問題につながっていることに気付かせていく。汎用性のある授業にしていくためには、教科書の流れを重視し、その中でも「導入」や「思考を深める」場面での写真や映像の提示することが新たな知識の獲得となり、思考を深めるために効果的であると考え。他の教科でもこの2つの場面での資料活用を活用した授業展開は可能である。					

また、本授業は「SDGs 12 つくる責任つかう責任」と関連付けて行う。特に消費者という立場から「つかう責任」について自分たちにできることや物や金銭を使うときに大切な考え方について考えさせたい。一方で、本校では SDGs に関する取り組みは行われていないため、ターゲットの意味や言葉での学習ではなく、消費者として考えるべき様々な視点を示す中で「つかう責任」について気付かせられるようにしたい。

【児童観】

5 年生から学び始めた家庭科については、裁縫実習の単元が中心だったため意欲的に取り組む児童が多かった。また、家庭科の授業開きの際には「お金の使い方」について学ぶ本単元について漠然と興味を示す児童もいた。日常生活の面では複数の習い事を

していて自分のやりたいことに打ち込める環境の子どもたちや、家事や手伝いをして家族を支える子どももいる。そのためお金に関する経験の差がかなりあるため、子どもたちの経験差に配慮した授業展開が求められる。

本校は東京の吉祥寺駅の近くに位置し、学校のすぐ近くには井の頭自然文化園があり四季の虫や自然を身近に感じることでできる地域である。また、三鷹の森ジブリ美術館が近いこともあり、日常的に外国人の観光客を目にする機会が多い。

現在担任している学級で行った SDG s に関する実態調査から 23 人中 12 人の子どもたちは SDG s という言葉を知らないものの、多くの子どもたちが地球温暖化や新型コロナウイルスが地球規模の課題であるとの認識を示した。さらに、ゴミ問題、貧困や人種差別など様々な課題を捉えている回答も見られ、普段の生活の中で地球規模の課題を認識していることから、子どもたちの中に地球市民として考えるための種があることが分かった。一方で自分にできることについては消極的で漠然とした回答が目立っていた。そのため、問題について実感を伴って理解し、自分事として捉えることができるように「買い物」の模擬体験から自分で選択し、考えるという授業実践が有効であると考えた。

【教材観】

本単元では、始めに子どもたちと「持続可能な暮らし」について「地球に人間が住み続けることができるようにする暮らし」のように身近な言葉に置き換え、そのために必要なことについて SDG s の目標をヒントに身近な問題と関連させて想起させる。その後、日常生活の消費活動の工夫の背景には身近な問題、さらには地球規模の課題の解決につながりがあることに気付かせ、今後も自分自身の消費活動の工夫がそれらの課題解決の実現に必要であることを価値付けていく。

【指導観】

消費活動は生きていく上で欠かせないことである。また、買い物は生きる上で楽しさや喜びを生み出すものでもある。子どもたちには自己の消費活動についての経験を共有をしながら、一方で、今地球規模で起きている課題について知り、今後起こりえる事態について考えさせる。その中で、自分たちにできることややるべきことについて考え、娯楽としての消費と持続可能な暮らしのための消費の 2 つで葛藤する経験を通して、これからの自分にとっての消費活動のあるべき姿について考えをもつことが大切だと考える。

7. 単元計画（全7時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など※評価
1	持続可能なくらしについて、2030 年に向けた見通しや願いをもち、「持続可能」な社会の必要性に気付く。 持続可能なくらしのためのかしこい消費者とは、どのような消費者だろうか。	- SDGs のロゴマークを知る。 - ゴーゴーすごろくをして、地球規模の問題を知る。	(資)ゴーゴーSDGs (資)「私たちの生活とアフリカとのつながりを考えるワーク」 ※(知)SDGsについて目的やロゴ知る。
2	物を手に入るいろいろな方法や物の生産地を知り、消費者の役割について考える。	- 物の手の入れ方について考える。 - 身の回りの物の生産地を調べる。 - 生産から消費、ゴミの処理までの物の行方について考える。	(資)見付けよう！外国から来たモノ ※(思)身近な物の選び方、買い方について、振り返り、消費者について考える。
3.4	文房具の買い物の場面を通して、支払いの方法や「売買契約」の仕組みを知り、物の選び方について考える。	- 日常生活の中の契約のしくみや様々な金銭の支払いの方法や気を付けることについて話し合う。 - 売買契約が発生する場面を知る。 - 環境についてのマークを知り、ノートに書く。 - 身の回りの物のマークを探す。	※(知)買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。
5 本時	食品の買い物場面を通して、計画的な買い物の大切さについて気付く。食品ロスの問題について知り、問題解決のために自分たちにできることを友達と伝え合う。	- 買い物のときに気を付けることについて話し合う。 - 食品ロスの現状や原因、問題点について写真を見て話し合う。 - 自分にできることを考える。	(資)「食品ロス」映像 ※(思)身近な物の選び方、買い方について、工夫している。
6	衣料の買い物の場面を通して、環境に配慮した買い物について考える。 ゴミ問題について知り、問題解決のために自分たちにできることを友達と伝え合う。	- 買い物のときに気を付けることについて話し合う。 - ゴミ問題のビデオを見る。 - 分別収集のためのマークを知る。 - 自分にできることを考える。	(資)海をわたるプラスチックごみ(映像材料) ※(思)身近な生活が地球の課題とつながっていることを知り、生活の工夫を考える。
7	学習を振り返り、「持続可能なくらしのために必要な消費者」とは何か。自分の考えをもち実践しようとすることができる。	- 自分が今後の消費活動で取り組むことを具体的に考える。 - 一人ひとりが自分にとっての「〇〇な消費者」とし工夫することをカードに書き、伝え合う。	※(思)地球市民の一員として、持続可能な社会の実現のために、生活を工夫し、実践しようとしている。

8. 本時の展開			
本時のねらい：			
キャベツ（食品）の買い物場面を通して、計画的な買い物の大切さについて気付く。また、食品ロスの問題について知り、問題解決のために自分たちにできることを友達と伝え合う。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1「ノート」の買い物では、どんなことに気を付けて買い物をしましたか。 2 本時の問題場面を把握する。 かしこい消費者とは、 どのような消費者なのだろう	・環境に配慮した選び方について触れる。 ・食品の購入方法は様々であることに触れ、生のものは実際に見て買う良さに触れる。 ・食品もいろいろな国から来ていることに触れる。 (支) 自分の買いたいものとその理由について口頭で質問する。	・4枚の食品カード (ワークシート)
展開1 (10分)	3 今日は「キャベツ」を買います。みなさんはどのキャベツを買いますか。どうしてですか。 ①1玉 300 円 ②半分 180 円 ③1玉 無農薬 400 円 ④1玉 セール品(形が悪い) 270 円 ①一番ふつうそうだから。 ②無駄なく使いきれから。食べきれから。 ③無農薬野菜の方が体にいいから ④お得だから。(食べられるなら形は関係ない)	・買う時に意識する点についてまとめる。 ・食べきれる量である必要性について全体に問う。	・教科書 P36 図5 上手な選び方
展開2 (20分)	3 選ぶ時に意識していたことは何ですか。 ・おいしさ・新鮮(安全)・食べきれる量・値段 4 「食品ロス」によってどんな困った問題が起こるのでしょうか。 班ごとに写真を見て気付いたことを書きましょう。 ・ゴミの量が増える。 ・生産や輸送に人とエネルギーが無駄になる。 ・世界に食べられない人が出る。	・「食品ロス」の言葉の意味を教える。 ・食品ロスの実態（数値や具体的な場面）のグラフを示す。	(写真) ①食品ロスの排出元 1人あたりの排出量 ②生産時のエネルギー (小3 社会)
	5 食品をロスを減らすために、自分たちにできることは何でしょうか。 ・食べ残さない。 ・計画的に買い物をする。(量、予算、比較) ・残った食品の再利用を考える。(動物のえさ等) ・ゴミ袋の値段を上げてゴミの削減。	日本の食品ロス(2016年) 食品関係の会社から 352万トン 643万トン 一般消費者から 291万トン 資料は授業・授業後 別付	③ごみ処理時のエネルギー (小4 社会)
	6 ビデオを見て、さらに自分にできることがあったら書き足しましょう。 7 今日の授業をふりかえりましょう。	・店の取り組みについて紹介をする。 ・班ごとに自分たちができることを考え、ホワイトボードに書かせる。 ・自分にとっての賢い消費者について考えさせる。	④栄養不足の世界の子供 (思) 計画的な買い物の大切さに気付いている(発言) ・商品ロスについて知ろう。(東京都) (思) 食品ロスを減らすために自分にできることを考えている。 (発言・行動)

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

【思考力・判断力・表現力】

キャベツ（食品）の買い物場面を通して、計画的な買い物の大切さについて気付くことができたか。また、食品ロスの問題について知り、問題解決のために自分たちにできることを友達と伝え合うことができたか。（行動観察、ノート記述）

10. 学習方法および外部との連携

「持続可能なくらしのためのかしこい消費者とは、どのようなものなのか。」という問いに対して、実際の買い物場面を想定して、子どもたちの意見や生活経験から考えたことの交流を中心に授業を展開していく。毎時間の授業の中で「環境問題」「食品ロス」「ごみ問題」について写真や映像をもとに取り上げ、消費者として子どもたちが買い物をするときの材料となるようにする。その中で「自分たちのほしいものを買う買い物」と「地球に配慮した買い物」が必ずしも一致しないことや両者の実現の難しさの中で葛藤し、行動目標を決めていく。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

校内で公開授業として、管理職の観察授業に充てる。また、子どもたちの一人ひとりの宣言を教室や廊下に掲示し、学習の成果物を校内で共有できるようにする。

【自己評価】

12. 苦労した点	・実際に消費活動を行わない中で、自分ごとに捉えさせるために毎時間のテーマにつながる商品選択“あなたならどれを買う？”を行い、その理由を共有する中で買い物に必要な事項を見出していくようにした。そうすることで、授業前半にほとんどの児童が発言し、友達の考えに興味をもって参加することができた。「賢い消費者」というのは、いろいろな観点から商品を見つめて選ぶことだということも子どもたちに伝えられるようにした。 ・「賢い消費者」という抽象的な言葉を児童の言葉にできるように授業を進めたが、「環境にやさしい消費者」「食品ロスをしない消費者」「物を大切にする消費者」という言葉が多く、実際に行動目標となるような「ノートを最後まで丁寧に使う消費者」「買い物の前に必要なメモを取り計画的に行う消費者」「環境マークのある商品を使う消費者」「賞味期限を確認して買いすぎをしない消費者」と書く児童は少なく、具体性のある行動目標につなげることは難しかった。
13. 改善点	〈参観者の視点から〉 ・授業前半の児童がキャベツの選択理由について話すのは良かったが、後半の自分たちにできることを考えさせる時間を確保するには、前半部分の意見交流の時間を短縮した方がよい。 ・子どもたちのキャベツの選択理由から、今日考える“食べ残し”のテーマにいかに焦点化させるかが大切。また、できることについても考える視点を絞ること（例えば買い物場面など）で具体的なアイディアが出やすかったのではないかな。 ・授業後半の時間にそれぞれのグループで出た中で、「賞味期限が短いものを選んで、忘れないうちにすぐ食べる」と「賞味期限が長いものを選んで、捨てることがないようにする」という一見、相対する考えが出たところでもっと話合わせられたら良かった。

	・最後にビデオを見せたが、その前の教師からの食品ロスに関する情報と同じだったため不要だったのではないか。														
14. 成果が出た点	〈参加者の視点から〉 ・授業前半では児童の生活に関わる事例内容であったため、積極的に意見を交流できていてよかった。 ・授業後半の自分たちにできることについて考える時間では、「〇〇しない」だけでなく「〇〇しないために〜〜する」というように、否定で終わらずできることを具体的に考えられていたので良かった。 ・食品ロスについて、給食の残飯など身近なことを取り上げていたので児童にとっても自分事に捉えることができた。 〈授業者の視点から〉 ・授業後も、黒板前に集まり自分にできることについてのグループごとのボードの前に自分の意見を言い合う児童の姿が見られ、話し合い活動に夢中になって取り組んだ様子が見られた。 ・食品ロスの実態の中で本校の給食の残食数を知るために栄養士の方に協力を仰いだところ、栄養士が授業や学習内容についても興味を示してくれ、データを共有するなど今後の食育指導についても連携・協力する関係を築くことができた。 ・今後は単元最後に記入した消費者宣言を廊下に掲示し、毎週の家庭科の時間に前の週のことを振り返らせ、日常的な行動実践につなげていく。														
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	主発問「賢い消費者とはどのような消費者だろうか」 <table><tr><td>商品</td><td>(ア) 1 玉 200 円</td><td>(イ) 半玉 120 円</td><td>(ウ) 1 玉 260 円 無農薬野菜</td><td>(エ) 1 玉 180 円 セール品形が悪い</td></tr><tr><td>理由</td><td> ・見た目がおいしそう。 ・値段も見た目も普通。 </td><td> ・安い。 ・一番少ないから残さない。 ・余らせない。 ・使い切れる。 </td><td> ・体にいい。 ・食べられるところが多い。 ・環境にもいい。 ・安心。 </td><td> ・安い。お得。 ・売れずに捨てられるのを防ぐ。 ・もったいない。 ・無駄にならない。 </td></tr></table> (1) 食品ロスを減らすために自分たちにできることは何だろうか。 ・計画を立てて、メモをして買い物に行く。無駄な物を買わない。 ・賞味期限が短いものを買って、買ったらすぐに食べる。 ・できるだけ賞味期限が長いものを買う。 ・残ったものは冷凍保存する。 ・作りすぎ、作りためをしない。 ・食べ残さない・絶対に食べきれるように、少しずつおかわりをする。 ・レストランで頼むときは食べきれる量かどうか内容量をメニューで確認する。 (2) 授業の感想 ・最初は無農薬の野菜（キャベツ）を選ぼうと思ったけれど、みんなの意見を聞いて、形が悪いものでもいいなあと思いました。 ・これだけの量が捨てられていてもったいないと思った。 ・食品ロスは食品のことだけでなく、エネルギー問題や環境汚染につながっている					商品	(ア) 1 玉 200 円	(イ) 半玉 120 円	(ウ) 1 玉 260 円 無農薬野菜	(エ) 1 玉 180 円 セール品形が悪い	理由	・見た目がおいしそう。 ・値段も見た目も普通。	・安い。 ・一番少ないから残さない。 ・余らせない。 ・使い切れる。	・体にいい。 ・食べられるところが多い。 ・環境にもいい。 ・安心。	・安い。お得。 ・売れずに捨てられるのを防ぐ。 ・もったいない。 ・無駄にならない。
商品	(ア) 1 玉 200 円	(イ) 半玉 120 円	(ウ) 1 玉 260 円 無農薬野菜	(エ) 1 玉 180 円 セール品形が悪い											
理由	・見た目がおいしそう。 ・値段も見た目も普通。	・安い。 ・一番少ないから残さない。 ・余らせない。 ・使い切れる。	・体にいい。 ・食べられるところが多い。 ・環境にもいい。 ・安心。	・安い。お得。 ・売れずに捨てられるのを防ぐ。 ・もったいない。 ・無駄にならない。											

	ことが分かった。 ・これからは使わないものを買わないようにしたい。643 万トンの食品ロスを減らしたい。 ・普通に食べ物を残していたので、これからは捨てられるものを減らしていくようにしたい。 ・食品ロスをなくするために計画的な買い物、食べ方をしていく。 ・食品ロスは人の心も傷つけてしまうと思う。 ・今まで食品ロスをしてしまっていたかもしれない。今度からは使う分だけ買うようにしたい。
16. 授業者による自由記述	この単元では SDG s に関するすごろくゲームで導入を行い、自分たちの生活と世界のつながりについて触れた。そこで一定の子どもたちが興味を示し、ユニクロが洋服を回収している話やマクドナルドがおもちゃを回収している話が出るなど、日常の中で行われていることや工夫を目にしていることが分かった。だからこそ、授業の中で新ためてその必要性について考えることに価値があると感じた。 食品に関する消費について考える本時では、授業前半の生活場面の振り返る時間に比べ、日本の食品ロスの実態を知った後の後半の自分たちにできることを考える時間の方がより必要感を感じ、思考する様子が見られた。このことから、児童が正しい知識や実態を把握することが児童自身に危機感や驚き発見を生み出し、その感情によって自分たちにできることを真剣に考えるきっかけになると感じた。さらに自分たちが必要だと思う行動目標こそが実際の行動につながっていくのではないかと考えた。対話的な学びの裏には正しい知識による対話の下支えや根拠となる事実（知識）が必要だと感じた。 また、環境問題や食品ロス問題、ゴミ問題の解決のための方法を探る学習では必ずしも正解が一つではないことから、互いの考えや疑問、提案に耳を傾ける姿が見られ、現在、児童に求められている“対話的な学び”の姿に近づく話し合いが実現できるのではないかと感じた。 単元最後の振り返りの場面で買い物のときのポイントの振り返りの際に、「日本製がいい」と発言した児童にたいしてある児童が「でも中国がいなかったらぼくらの生活は成り立たないよ。」と意見を述べ、自国のよさに気付きつつ、他国との関係で自分たちの生活が成り立っていることに気付いた児童の姿もみられた。 単元のまとめの活動として一人ひとりが「私は〇〇な消費者になる！」という消費者宣言をカードに書き、毎週の家庭科の授業で一週間の行動を振り返りシールを貼っている。宣言の内容としては、「消しゴムを最後まで使い、物を大切にする」「プラスチックごみを減らすためにマイボトル・エコバッグを使う」「無駄に買わないために、予算を決めて計画的に買い物をする」「使い終わったものをリメイクする」等が多かった。児童自身が買い物をしない週もあることから、家族に声をかけるということも行動としてみなし、半年間継続的に意識して取り組むことができるようにしていく。

参考資料：

- ・学習指導要領解説：家庭科
- ・ACCU 発行『変容につながる 16 のアプローチ SDG s を活かした学校教員の取り組み』
- ・星野洋美、2018、『グローバル社会における消費者教育の推進に向けた家庭科の取り組み』常葉大学教育学部紀要 第 39 号 p213-228

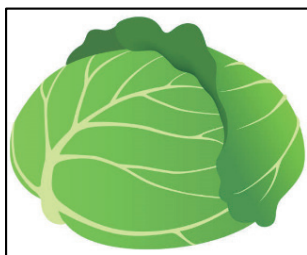
持続可能な暮らしへ～物とお金の使い方～

5年 組 番 ()

--



1. あなたなら、どれを買う？（○しましょう。）



1玉 300円
長野産



半玉 190 円
長野産



1玉 400円
無農薬野菜



1玉 250円
セール品

理由

[illegible]

2.食品ロス（食べ残し）によってどんな困った問題が起こるだろうか。

3.自分にできることはなんだろうか。（買い物をする時・食べる時）



わたしは (どんな)

消費者になる！

理由

ふりかえり（今日学んだこと・考えたこと・これからに生かしたいこと・ぎもん）
